

大阪Reportレポート



長野県大阪事務所・観光情報センター Report Letter Vol. 14 (2023. 7. 4)

長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

関西の今くトピックス

- <2025年大阪・関西万博> 入場券価格を公表 <https://www.expo2025.or.jp/>
 - ・万博入場券の価格を公表、大人の基本料金を7,500円、開幕500日前の本年11月から販売する前売券は期間に応じて4,000円から、何度でも入場可能な通期パスは3万円、小人や学校団体などは大幅に割引の方針。
 - ・開催期間中約1週間ごとに地球的課題を設定し対話と交流を行う「テーマウィーク」のテーマ構成を公表、「地球の未来と生物多様性」「健康とウェルビーイング」「平和と人権」「食と暮らしの未来」「学びと遊び」「未来への文化共創」「未来のコミュニティとモビリティ」「SDGs + Beyond いのち輝く未来社会」の8つで、プログラムへの協賛企業・団体等の募集も開始。
 - ・「つながる万博-参加型万博実践の場」をコンセプトにした「TEAM EXPO 2025」プログラムの参加者出展エリアの設置を公表、共創チャレンジ(募集中)から来年9月まで3,000組を順次公募、期間中にステージ発表やブース展示、共創オープンイノベーション機会の創出等を実施。
- <観光> 訪日客は着実に回復、新型車両も
 - ・5月の訪日客が189.8万人とコロナ前の68%、韓国が全体の約3分の1占める。関西空港の国際線旅客数も57%まで回復、外国人が98万人余で前年比約24倍に増加。
 - ・大阪メトロの新型車両400系が運行開始、前面が鉄道では珍しい八角形で宇宙船をイメージ、万博会場・夢洲まで延伸予定の中央線に導入。
- <産業> EV、先端半導体、環境関連など将来への積極投資
 - ・上場企業各社が決算発表、株主総会において、本年度や中期での設備投資計画を公表、関西企業も、製造業は、パナソニック・住友電工・ローム・岩谷産業などEVや先端半導体、環境関連などの製品増産や設備投資、非製造業でも、阪神阪急HD・関西電力などインバウンド回復や万博等見据えたエネルギーや環境などの積極的な投資計画を公表。

大阪での取り組みの今

最近のトピックスを紹介

- 「ファサカ・マーケット」(6/2-3・大阪駅前 阪神梅田本店西側広場)
⇒大阪の正面Face of Osaka⇒Fasaka(ファサカ)、玄関口にふさわしい街づくりプロジェクトの一環で始まった都市型路上マルシェに出展、牛乳パンなどの特産品販売や初夏の信州観光をPR
- 「阪急三番街クラフトフェア」
(6/3:梅田駅 阪急三番街北館B1Fふれあい広場)
⇒上高地あずさ珈琲とのつながりで、大阪梅田駅直結・阪急三番街のイベント「クラフトフェア」に参加、信州の木を使った木工体験「マイ箸づくり」では、大勢の親子で賑った。



●「“魅力いっぱい”本州まんなか観光展」(6/16-17:天神橋筋二丁目商店街)

⇒在阪関東甲信越静6県の大坂事務所が連携して夏の各県の魅力をアピール、観光パンフレットの配布・観光案内・特産品販売、日本一長い商店街で信州をPR、安曇野・上高地・軽井沢・蓼科など高原や夏の信州に関する質問が多かった。



●「初夏のさわやか信州フェア」

(6/27-29:大阪観光情報センター内)

⇒この時期だけの初夏の味の生あんず・ハーコットや5種類の牛乳パン、おやきなど信州の特産品を販売、夏の信州の旅と大阪観光情報センターをPR、直前のテレビ報道もあり、牛乳パンは連日大人気。



大阪の拠点としての活動予定・イベントなど

★「楽園信州移住セミナー」(7/8:シティプラザ大阪)

～「移住したいと思ったら～何から始めればいいのか?～」テーマに信州くらしの魅力伝えるセミナーと個別相談会を開催～



★「日本列島心のふるさと観光展」(7/7-20:JR北新地駅みちまちスクウェア)

～在阪事務所が協働してパンフレットコーナー出展、夏を迎える信州をポスターとパンフでPR～



★「梅田ゆかた祭 2023 うめだいろ縁日」(7/22-23:JR北新地駅曽根崎地下歩道)

～梅田の町が色とりどりのゆかた姿でいっぱいになる。「梅田の夏の風物詩」を目指して2012年から始まったお祭り。「うめだいろ縁日そねちか会場」に長野県も出展～

★「伊丹松本便就航イベント」(8/1:大阪国際空港(伊丹))

～8月1か月限定でJAL信州まつもと⇔大阪(伊丹)線が就航、初日の便に合わせて、空港でJAL、J-AIRと連携して、信州のPRを実施、アルクマがお見送り



